

資料

学校生活における子どもの健康状態に関する保護者の気がかりと健康管理支援へのニーズ

Parental Concerns Regarding the Health of Their Child in School and the Health Care Support Needs of Parents

大久保明子¹⁾, 伊藤ひかる¹⁾, 永吉雅人¹⁾, 境原三津夫¹⁾

Akiko Ohkubo¹⁾, Hikaru Ito¹⁾, Masato Nagayoshi¹⁾, Mitsuo Sakaiharu¹⁾

キーワード：学校生活, 健康管理支援, ニーズ, 保護者

Keywords: school life, health care support, needs, parents

要旨

本研究の目的は、学校生活における子どもの健康状態に関する保護者の気がかりと健康管理支援に関するニーズを明らかにすることである。A県B市にある小・中学生の子どもの保護者を対象とした無記名自記式の質問紙調査を2021年10月～12月に実施した。

学校生活における子どもの健康状態に関する気がかりと健康管理支援ニーズに関する保護者の自由記述回答の内容を質的帰納的に分析した結果、「子どもの健康状態に関する気がかり」は7カテゴリ、「健康管理支援に関するニーズ」は6カテゴリに分類された。

子どもの健康状態に関する保護者の気がかりや健康管理支援のニーズの多くは、思春期特有の身体的変化や心の不安定さに関連していると考えられた。学校側の配慮や支援に加え、子ども自身が心身の健康に関心を持ち、セルフケアができるための健康教育の充実が必要である。また、子どもの特性に応じた支援の充実や心の問題を早期発見するための保護者と学校の情報共有と連携の強化の必要性が示唆された。

I. 緒言

地域の小・中学校には、気管支喘息、食物アレルギーなどのアレルギー疾患の子どもたち、病弱児、発達障害児など「健康管理に特別な配慮を必要とする子どもたち（以下、「健康配慮対象児」）」が数多く在籍しており、近年、学校はこのような子どもたちの様々なニーズに応じるための支援として合理的配慮の提供に努力している。慢性疾患を持つ子どもの8割以上が通常の学級に在籍しており、養護教諭は、慢性疾患の子どもへの健康管理支援として、感染予防、日常の健康観察の徹底、医療管理の徹底、症状や苦痛の緩和、病気に関連しての保健指導・健康教育などを行っている（葛西, 2008）。一方、健康配慮対象児のみならず、すべ

ての子どもたちにとって、学校生活における教育の充実のためには健康管理支援は欠かせない。子どもの健康管理は保護者が重要な役割を持つが、子どもの生活の大半を占める学校生活においては、養護教諭や担任の理解や配慮が必要である。しかし、通常の学級では治療や健康に留意しながらの学校生活に対する理解や配慮が不足している（猪狩, 2015）との報告もあり、子どもの健康に関する保護者の心配事の一つとなることが推測される。

中学生の母親は将来の進路や整理整頓ができないこと、睡眠不足などを健康への影響要因として心配していること（平井, 園田, 2014）や、幼児学童の子どもを持つ親は、行動上の問題や病気の結果、子育て全般

2022年7月15日受付；2022年12月14日受理

1) 新潟県立看護大学 Niigata College of Nursing

などに心配している (Reijneveld et al., 2008) との報告がある。しかし、学校生活に限定した子どもの健康状態に関する保護者の気がかりや健康管理に関する支援ニーズについて明らかにされている国内文献はなかった。

そこで、本研究は、小・中学生の子どもを持つ保護者を対象に、学校生活における子どもの健康状態に関する気がかりと健康管理支援に関するニーズを明らかにすることを目的とした。本研究により、学校における健康管理支援の充実に向けた示唆が得られる。

II. 研究方法

1. 研究対象者

A 県 B 市にある小・中学校のうち、学校保健統計調査の健康状態調査の標本抽出方法 (文部科学省, n. d.) を参考に、各校の児童・生徒数による層化集落抽出法を用いて選定した小学校 10 校、中学校 5 校のうち、学校長から承諾が得られた学校とし、対象者の心理的な負担軽減の観点から、子どもや保護者が学校生活に慣れ、比較的安定した時期であると考えられる小学 5 年生、及び中学 2 年生の保護者を対象とした。

2. データ収集方法

本研究は無記名自記式の質問紙調査であり、2021

年 10 月～12 月に実施した。調査項目は、回答者の属性 (子どもとの関係)、子どもの健康状態への心配や悩みの有無、子どもの健康状態に関する気がかりと健康管理支援ニーズであった。学級担任より子どもを介して保護者に質問紙の配布を行い、学校に設置した回収箱に子どもから投函してもらった。

3. データ分析方法

回答者の属性と子どもの健康状態に関する心配や悩みの有無は単純集計、子どもの健康状態に関する気がかりと健康管理支援ニーズに関する保護者の自由記述回答の内容は類似性に沿ってコード化、カテゴリー化し、質的帰納的に分析するとともに、学年別に記述件数を示した。分析は共同研究者と繰り返し検討および確認し、妥当性の担保に努めた。

4. 倫理的配慮

新潟県立看護大学倫理審査委員会の承認 (承認番号: m021-1) を得て実施した。

III. 結果

1. 対象者の概要

小学校 5 年生及び中学校 2 年生の保護者に 1,010 部を配布し、有効回答 527 部 (有効回答率 52.2%) を分析対象とした。小学 5 年生の保護者 215 名のうち、

表 1 学校生活における子どもの健康状態に関する保護者の気がかり

カテゴリー (7)	サブカテゴリー (25)	コード	
		小学5年生 (80)	中学2年生 (94)
体調不良や身体的成長の遅れ	肥満	8	5
	食物アレルギーや気管支喘息の悪化	7	2
	生理不順や生理痛など	—	8
	身長が伸びない	2	6
	やせ/過剰なダイエット	2	5
	病気の症状や活動制限	4	2
	頭痛	—	5
	部活での怪我	—	4
	ニキビ	—	3
	便秘	—	2
	視力低下	1	1
吃音やチック	2	—	
情緒不安定や意欲の欠如・過剰ストレス	感情の浮き沈み/イライラ	8	10
	性格/ HSC (Highly Sensitive Child) 気質/ 神経質	5	3
	緊張や不安による身体症状	5	3
	自己肯定感の低さ/意欲の欠如	3	2
学校生活や人間関係の心身への影響	友人との人間関係/いじめへの不安	9	11
	不登校/学校へ行きたくない/楽しくない	3	3
	担任との関係	—	1
	部活の指導者との関係	—	1
子どもの悩みの抱え込みへの懸念	子どもが悩みを抱えていないか	8	7
二次性徴に伴う心身の変化	初潮/月経への子ども自身の対処や知識不足	6	1
	二次性徴に伴う心の変化	5	—
メディアへの依存や影響	メディアへの依存や影響	1	5
新型コロナウイルス感染症による影響	新型コロナウイルス感染症による影響	1	4

197名(91.6%)が母親, 18名(8.4%)が父親, 未記入が1名(0.5%)であった。中学2年生の保護者312名のうち, 282名(90.4%)が母親, 23名(7.4%)が父親, 3名(1.0%)が祖母等, 未記入が4名(1.3%)であった。子どもの健康状態に心配や悩みが「ある」と答えた小学5年生の保護者は131名(60.9%), 中学2年生の保護者は84名(26.9%)であった。

2. 学校生活における子どもの健康状態に対する保護者の気付き(表1)

子どもの健康状態に関する気付きは, 174コードが抽出され, 25サブカテゴリー, さらに【体調不良や身体的成長の遅れ】【情緒不安定や意欲の欠如・過剰ストレス】【学校生活や人間関係の心身への影響】【子どもの悩みの抱え込みへの懸念】【二次性徴に伴う心身の変化】【メディアへの依存や影響】【新型コロナウイルス感染症による影響】(以下, コロナ感染症)の7カテゴリーに分類された。

【体調不良や身体的成長の遅れ】では, 小学5年生の保護者は, 肥満やコレステロール値が高いこと, 食物アレルギーや気管支喘息などの症状悪化の心配が多く, 中学校2年生の保護者の気付きは, 生理不順や生理痛, 低身長, 肥満や過剰なダイエットによる体調不良が多く, 頭痛や部活での怪我など多岐にわたっていた。【情緒不安定や意欲の欠如・過剰ストレス】では,

両学年ともに気分の浮き沈みやイライラなどの情緒不安定さを心配する保護者が多く, 小学5年生の保護者は, 緊張によるトイレの回数増加や頭痛など過剰なストレスを心配していた。【学校生活や人間関係の心身への影響】では, 学年を問わず友人との人間関係やいじめへの不安について心配する保護者が多く, 不登校による健康への影響も心配していた。【子どもの悩みの抱え込みへの懸念】は, 両学年ほぼ同数であり, 学校での様子や本心をあまり話してくれないことや, 親に言えなくても相談できる人はいるのかなど子どもが悩みを抱え込んでいないかについて気にかけていた。【二次性徴に伴う心身の変化】は, 小学5年生の保護者の気付きが多く, 初潮の発現や生理時に適切な対処ができていないか, 生理など二次性徴に伴う心の変化であった。【メディアへの依存や影響】と【コロナ感染症による影響】は, 中学2年生の保護者の気付きが多く, ゲームやパソコンなどのメディア依存, コロナ禍が長期化することによる運動不足やコミュニケーション不足, マスク着用や感染対策に神経質になっていることなどを心配していた。

3. 学校生活における子どもへの健康管理支援に関する保護者のニーズ(表2)

健康管理支援に関するニーズとして, 86コードが抽出され, 23サブカテゴリー, さらに【子どもの悩

表2 学校生活における子どもへの健康管理支援に関する保護者のニーズ

カテゴリー (6)	サブカテゴリー (23)	コード	
		小学5年生 (42)	中学2年生 (44)
子どもの悩みや課題に応じた教育指導	健康管理に関する教育指導をしてほしい	1	6
	性について理解が深められるような教育をしてほしい	3	2
	二次性徴に対応した教育をしてほしい	4	—
	感染予防に関する教育・指導をしてほしい	—	2
	命の大切さを知るための教育をしてほしい	1	—
	実際の課題に対応した情報教育をしてほしい	—	1
	人とのかかわり方に関する教育をしてほしい	1	—
子どもの特性に応じた配慮と支援の充実	必要時支援について話し合いたい	—	5
	教師の支援・指導体制を直してほしい	2	3
	クラス編成の配慮をしてほしい	—	4
	子どもの特性に応じた対応をしてほしい	2	—
一人一人の子どもの尊重	子どもを気にかけて見守ってほしい	—	6
	一人一人の状態を細やかに把握してほしい	5	—
	一人一人に寄り添い大切にしてほしい	3	—
相談しやすい環境づくりと心のケア	本人の思いを受け止め, 精神的な支えになってほしい	—	6
	相談しやすい環境を作してほしい	5	—
	心の状態の観察やケアをしてほしい	3	—
病気や体調不良への理解と対応	生理中に水泳や体育等を休みやすいようにしてほしい	1	4
	体調不良や困りごとがある子どもに柔軟に対応してほしい	3	—
	授業中でもトイレに行きやすい配慮をしてほしい	1	1
	体調不良時にゆっくり休むことができる場所を確保してほしい	—	2
気になる様子の定期的な発信	子どもの様子を教えてほしい	3	2
	学校での様子や気になる情報を定期的に発信してほしい	4	—

みや課題に応じた教育指導】【子どもの特性に応じた配慮と支援の充実】【一人一人の子どもの尊重】【相談しやすい環境づくりと心のケア】【病気や体調不良への理解と対応】【気になる様子の定期的な発信】の6カテゴリーに分類された。

【子どもの悩みや課題に応じた教育指導】では、小学5年生の保護者は生理などの二次性徴に対応した教育や、性の理解に関する教育の要望が多く、中学2年生の保護者は食事の大切さや感染予防などの健康管理に関する教育・指導の要望が多かった。【子どもの特性に応じた配慮と支援の充実】では、小学5年生の保護者はうまくできないことがある子どもの特性に応じた対応や、クラス替えに伴う担任間の支援の継続といった教師の支援・指導体制の見直しを要望していた。中学2年生の保護者からは子どもの特性やどのような支援や配慮をしてもらえるのかについてもっと話し合う時間がほしい、苦手な人と一緒にならないクラス編成への配慮などの要望があった。【一人一人の子どもの尊重】では、小学5年生の保護者は、子どもたちを集団としてみるだけでなく、個々の状態を細やかに把握してほしいことや、一人一人に寄り添ってほしいと要望していた。中学2年生の保護者からは子どもを気にかけて見守ってほしいという要望があった。【相談しやすい環境づくりと心のケア】では、小学5年生の保護者からは子どもの表情などをよく観察して、「心配しているよ」などの言葉掛けをするなど子どもが相談しやすい環境を作してほしいという要望があり、中学2年生の保護者の要望は本人の思いを受け止め、精神的な支えになってほしいであった。【病気や体調不良への理解と対応】では、小学5年生の保護者は体調不良や困りごとがある子どもへの柔軟な対応を要望しており、中学2年生の保護者の要望は生理中の水泳や体育等を休みやすいようにしてほしいことや、体調不良時にゆっくり休むことができる場所の確保などであった。【気になる様子の定期的な発信】は、小学5年生の保護者からの要望が多く、学校での子どもの様子やクラス全体の様子を教えてほしい、いつもと変わったことや気になる情報について定期的に発信してほしいという内容であった。

IV. 考察

子どもの健康状態に関する保護者の気がかりの多くは、【体調不良や身体的成長の遅れ】【情緒不安定や意欲の欠如・過剰ストレス】【二次性徴に伴う心身の変化】といった思春期特有の身体的変化や心の不安定さ

に関連していた。小学5年生の保護者は月経に関する知識不足やこれから起こる二次性徴を心配し、中学2年生の保護者は生理不順や生理痛を心配するなど子どもの身体的変化に伴って気がかりが変化していた。一方、友人との人間関係やいじめへの不安など【学校生活や人間関係の心身への影響】は両学年の保護者ともに気がかりに挙げていた。思春期の子どもは、大人の秩序と保護から意識的に離れようとして同じような考えをもつ友人と仲間集団を形成する。親密な友人関係をもつことは自分自身と向き合い、価値観や自己像を作り上げるために重要であるが、友人との関係性に悩む者も多い(上田, 2012)。保護者は生活の大半を学校で過ごす子どもが、友人関係に支障をきたした場合に心身の健康状態に影響を及ぼすことを懸念しているのではないかと考える。また、【メディアへの依存や影響】と【コロナ感染症による影響】は、タブレット端末や携帯電話の使用頻度の高さや、感染症への関心度の高さにより、中学2年生の保護者の方が心配していたのではないかと推察する。さらに、【子どもの悩みの抱え込みへの懸念】では、思春期は秘密が多くなり、何を考えているのか、何が問題なのかがわかりづらく、親や教師に反抗的な態度をとることも多くなることから(松井, 藤井, 2020)、子どもが悩みを抱え込んでいないか、相談できる人はいるのかなどを心配していたと考えられる。

一方、健康管理支援のニーズでは、小学5年生の保護者は性に関する教育や二次性徴に対応した教育、中学2年生の保護者は生理中の水泳や体育への配慮や、休める場所の確保など両学年共に生理に関する配慮や教育の要望が多いことが特徴的であった。これは回答者の9割が母親であり、同性として女兒の身体的変化への関心が高いことが要因ではないかと推測される。月経に関する最初の教育は小学校4年生で、特に修学旅行など宿泊を伴うイベントの前に行われているが、教育を受けた時点で初経が未発来の子にとっては知識が定着しにくいと、一度だけでなく毎年繰り返し実施することが必要である(工藤, 古山, 2020)。また、大学生を対象とした調査では、月経の仕組みだけでなく、月経の手当や生理中の心身の変化の対応について受講しなかったとの報告もある(見城, 小尾, 2020)。限られた授業時間の中で、月経教育を含む性や命の教育を組み込むことが困難であることは容易に推測されるが、自身の心身の変化や、性や命について知識を得ることは思春期の発達課題である自我同一性の獲得においても重要であると考えられる。また、学校生活に

における健康管理は、学校側の配慮や支援だけでは限界があるため、子ども自身が心身の健康に関心を持ち、セルフケアができるための健康教育の充実や、子どもの健康に関する保護者の関心を高め、連携していくことが必要であると考えます。

また、義務教育課程にある児童生徒数は減少している一方、発達障害があり特別支援教育を受ける児童生徒数は増加傾向にある（文部科学省，2019）。保護者は【子どもの特性に応じた配慮と支援の充実】を望んでおり、診断を受けていない場合であっても、保護者の気付きに耳を傾け、保護者と共に子どもへの配慮・支援内容を考えていく必要がある。

青柳ら（2016）は、児童生徒の心の健康状態は深刻な状況で、かつ多様化しており、学校現場においては広くメンタルヘルス対策が必要であると述べている。両学年の保護者ともに心のケアを要望していることから、子どもが悩みを抱え込まず、相談しやすい環境を整えたとともに、心の問題を早期に発見するために、一人一人の心身の悩みに気づける観察力や感受性を養うこと、保護者と学校の情報共有と連携の強化が望まれる。

本研究は自由回答記述をデータとしているために回答者の意図が十分に反映できていない可能性があること、回答者の9割が母親であるため結果に偏りがあることが限界である。

V. 結論

学校生活における「子どもの健康状態に関する保護者の気付き」は7カテゴリー、「健康支援ニーズ」は6カテゴリーに分類された。思春期特有の身体的変化や心の不安定さに配慮した健康管理支援の必要性が示唆された。

謝辞

本調査にご協力いただきました保護者の皆様に心より感謝申し上げます。

利益相反

本研究は、令和2年度科学研究費助成事業基盤研究(B)「健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの教育的支援に関する地域連携モデルの構築（課題番号：20H01706）」の助成を受けて実施したものであり、研究遂行や論文作成における利益相反はありません。

著者資格

AOは研究の構想、データ収集、分析、解釈、原稿作成までの研究プロセス全体に貢献。；HI、MN及びMSは研究の構想、データ収集、分析、解釈、原稿作成への示唆に貢献。すべての筆者は最終原稿を読み承認した。

文献

- 青柳千春，笠巻純一，横山知行．(2016)．子供の心の健康づくりに関わる学校の支援に関する研究動向．思春期学，34(2)，260-270．
- 平井美幸，園田悦代．(2014)．中学生の健康への影響要因に関する母親の心配．大阪教育大学紀要 第III部門，63(1)，57-65．
- 猪狩恵美子．(2015)．通常学級における病気療養児の教育保障に関する研究動向．特殊教育学研究，53(2)，107-115．
- 葛西敦子．(2008)．養護教諭の「慢性疾患の子どもへの支援」に関する因果的構造モデルの構築．学校保健研究，50(5)，371-384．
- 見城梨佳，小尾栄子．(2020)．大学生が性に関する指導で受講してきた内容と受講しなかった内容の認識．養護実践学研究，3(1)，81-88．
- 工藤里香，古山美穂．(2022)．小学校・中学校の養護教諭から見た思春期女子の月経に関する健康行動を構成している概念．看護ケアサイエンス学会誌，20(2)，127-136．
- 松井美夏，藤井靖．(2020)．思春期の子どもを持つ母親に対する予防的子育て支援の現状と課題．明星大学心理学研究紀要，38，35-41．
- 水内豊和，室正人，大井ひかる，成田泉，島田明子，中島育美．(2017)．通常学級に在籍する病気療養児への教育的支援の現状—疾患ならびに入院日数による検討から—．小児保健研究，76(4)，360-369．
- 文部科学省．(2019)．発達障害等のある子供達の学びを支える～共生に向けた「学び」の質の向上プラン～．https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/01/29/1413125_03_1.pdf（検索日：2022年6月27日）
- 文部科学省．(n.d)．学校保健統計調査-調査の概要．https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa05/hoken/gaiyou/chousa/1268648.html（検索日2021年5月19日）
- Reijnveld SA, de Meer G, Wiefferink CH, Crone MR.

(2008). Parents' concerns about children are highly prevalent but often not confirmed by child doctors and nurses. BMC Public Health, 8, 124. <https://doi.org/10.1186/1471-2458-8-124> (検索日：2022年8月24日)

上田礼子. (2012). 生涯人間発達学 改訂第2版増補版. 三輪書店.